

FUJIYA GALLERY Selction 岡野岬石展

この度、藤屋画廊にて下記展覧会を開催する運びとなりました。
是非、貴媒体にて展覧会情報を掲載して頂きたくご案内申し上げます。

展覧会名 : FUJIYA GALLERY Selection 岡野岬石展

会期 : 2020年6月10日(水)～6月27日(土)

会場 : 藤屋画廊

住所 : 東京都中央区銀座2-6-5 藤屋ビル2階

TEL/FAX : 03-3564-1361

時間 : 12:00-19:00 (最終日は～17時)

作家 : 岡野岬石

<略歴>

1946 岡山県玉野市生まれ

1968 東京芸術大学油画科卒業

卒業製作サロンド・プランタン賞を受賞

1971 日本橋画廊にて個展 (,1972,1973,1976,1978)

1972 東京芸術大学大学院修了

1975 飯田画廊(銀座)にて個展

1976 日本橋画廊にて個展

田島英昭、三栖右嗣と赫陽展を結成

同第一回展を資生堂ギャラリー(銀座)にて開催 (,1978,1980,1984)

1982 月刊美術画廊(銀座)にて個展

1983 杏美画廊(新宿)にて個展 (,1985,1986,1988)

1989 たけうち画廊(新潟)にて個展

(,1991,1994,1995,1997,1998,1999,2000,2001)

1990 オンワードギャラリー日本橋にて個展

1991 ギャラリー銀座汲美(銀座)にて個展

1993 資生堂ギャラリー(銀座)にて個展

1994 藤屋画廊(銀座)にて個展

(,1999,2002,2004,2006,2008,2010,2012,2014,2015,2016,2018)



- 1996 西武池袋アート・フォーラムにて個展
- 1998 ギャラリーアシエット（成城）にて個展
 ギャラリーオオハシ（銀座）にて個展（,1999）
- 2000 ハイ・ブリッジギャラリー（銀座）にて個展
- 2002 美術世界画廊（銀座）にて岡野浩二・李斗植二人展
- 2003 アートギャラリー樹（銀座）にて個展（,2004）
 小田急・新宿店本館6階美術画廊にて個展
- 2004 「岡野浩二作品集（1993-2004）」刊行
- 2005 藤屋画廊（銀座）にて視惟展を開催（2005-2015）
 「芸術の杣径 一画家のアトリエからー」出版
- 2009 「芸術の杣径 一画家がアトリエからー」出版
- 2016 藤屋画廊（銀座）にてグループ展 イーゼル画会展
 以後毎年開催（2016,2017,2018,2019,2020）
- 2018 「全元論 一画家の畢竟地ー」出版

<ART FAIR>

- 2019 ART TAICHUNG 2019
 ART KAOHSIUNG 2019
- 2020 ONE ART TAIPEI 2020

<作品について>

岡野岬石は、自身の提示する美を求め、光と空間をテーマに具象と抽象の両面から作品を制作されている油絵画家です。彼は、長い画業の中で様々に絵画のスタイルを変化させ、常に新しい表現のかたちを磨き続けています。

初期の岡野の作品は、リアリズムやシュールレアリスムを想起させるかのような、緻密で静謐な幻視的風景の作品から始まり、それらの作品は一種の細密描写とも言えるようなタッチが特徴的で、当時高い人気を誇りました。

その後、50歳前後より自身が創り出した「抽象印象主義」という新しい手法での抽象画の制作を本格的に始め、現在もなお抽象画はこのスタイルで制作を続けています。

岡野は「絵画のメッセージ性や自己の無意識を排除し、世界を光と空間に還元し、超越的な美に向かって画面を全体化する」ことが「抽象印象主義」であると標榜しており、自己の無意識的な手による手法が抽象表現主義であるのに対して、抽象印象主義は自己の視覚で捕らえる手法であると言います。

この「抽象印象主義」に基づいて描かれた抽象画の作品は、光と空間をテーマとして掲げ、直線や円形などからなる色彩のグラデーションによって画面が構成されております。単純で原初

的なかたちで構成された画面は、圧倒的な存在感と美しさを放っています。

近年は、キャンバスを立てて対象を直接描写するイーゼル画に精力的に取り組んでおり、かつての幻視的な風景画から大きな変化を遂げました。岡野は、セザンヌの作品に直にふれたことにより、これまでのアトリエ絵画からイーゼル絵画への転換を決断しました。彼のこの出会いは、正しく彼のこれまでの絵画に対する考え方を大きく変えるものになり、「ものではなく、ものに当たる光をとらえる」ということを念頭に置き、今もなお研究を重ねています。岡野の描くイーゼル画は、光が様々な色が印象派の描法に基づき描かれており、いくつもの色の線が集まりひとつの画面をつくりだしています。その丁寧で緻密な描写からは、かつて描いていた幻視的な風景の描写と変わらぬ、彼の絵を描くことへの確固とした意志を筆致より感じられます。日の光が空間を照らす様子や、風に揺らぐ植物の空気感が画面から広がっております。

岡野は作品に対して、「〈もの〉を描くのではなく〈美の存在（光と空間）〉そのものを描く」という、一貫した概念で制作を続けています。

その概念から生み出される具象と抽象の作品は、画面から目で受け取ったものを思考や言葉としてではなく、体感として私たちに感動を与えてくれます。本質的な美しさは、思考や言葉で表すことができないほど素晴らしいものであると作品から教えられているかのようです。

今回の展覧会では、現在もなお研究を重ねているイーゼル画と、そのイーゼル画の研究から見てきた抽象画の作品を展示致します。岡野が捉えた美しさの数々をぜひご高覧ください。

<作品展示、出品作品について>

①テーマ

80×200cmの木枠2本を使う作品が、今回の個展のメインです。1本は縦に使った『垂光』、もう1本は横に使った『水平光』という作品を予定しています。岡野は現在まで、「抽象印象主義」の抽象画と、「イーゼル絵画」の具象画を並行して描いてきましたが、今回の作品は、抽象(演繹的方法)と具象(帰納的方法)を矛盾なく、連続して繋ぐことに挑戦しています。2010年にイーゼル画を始め、画面から眼までの斜めの空間の描写に気が付き、その空間を抽象画の表面に変換することによって、抽象画に足りなかった「物感(画面の上の形象の実在感)」を表象することが今回の個展の目標です。画家を志し、描写絵画を半世紀、「世界はそうなっている」ことの描写スキルを磨き続けた結果が、ここまで来たと岡野は言います。

②展示構想

スクリーンの前は〈イーゼル画会展〉に展示した『石見畳が浦海蝕洞』を抽象印象主義で描いた作品3点を展示する予定です。画廊真ん中のメインの壁面に80×200cmの作品を向かいあわせに展示、その他、抽象作品と昨年末出版した画文集『瀬戸内百景』の上梓後に完成した岡山県玉野市児島地(こしまじ)のイーゼル画を展示します。

③作品点数

30 点前後。

<お問い合わせ>

FUJIYA GALLERY Selection 岡野岬石展について、詳しくは下記にお問い合わせください。

〒104-0061 東京都中央区銀座 2-6-5 藤屋ビル 2 階

TEL/FAX 03-3564-1361 藤屋画廊（濱田宛）